



## 木の種 心にまこう ～読書のすすめ～

「本は好きですか？」と聞くと、「すき～！」と答えてくれる子どももいれば、「まあ、すきかな」と答えてくれる子どももいます。では「ゲームは好きですか？」と聞くと、ほとんどの子どもが「大好き！」と答えます。どちらも、夢中になると時間を忘れるほどのめり込む楽しさがあります。でも、明らかに子どもには、ゲームの方が楽しいようです。読書とゲームの差は何だろう…と考えてしまいます。

読書の良さは、文部科学省のホームページにも次のように書かれています。「読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことができないものです。」

読書には、読み終えたときに残るしっとりとした余韻があります。読み進めながら想像し、登場人物に心を寄せ、一緒に歩んできたような一体感が心に残ることもあります。まるで自分が成長したかのような疑似体験的な感動を味わえるのです。ゲームのスピード感や刺激、クリアした時の達成感とは違いますが、自分でじっくり読むからこそその良さが読書にはあります。

そんな読書の良さを子どもたちに知ってもらいたい。少しでも多くの本と出会い、心豊かに育ってほしい。そんな願いを込めて、敷島小ではいくつかの取組をしています。

子ども同士で好きな本を紹介しあう「読書ゆうびん」、図書館を好きになってもらうための「図書館たんけんツアー」、そして先生たちからの「本の紹介」です。特に「本の紹介」では、先生たちが子どもたちに向けたメッセージを添えて、とおきの一冊を紹介しています。

ほっこりとした思いを味わってほしい。主人公の成長をともに味わってほしい。新しい分野に興味をもってほしい。歴史上の人物から学びを得てほしい。

先生たちが様々な思いで多くの本を紹介しています。それは、子どもたちの心に「読書っていいな」という気持ちの種をまくことです。まいた種が芽を出し、育っていくためには「水やり」も大切です。家庭でのほんの少しの関わりが、その役割を果たしてくれます。「この本、どんなお話だった？」「今度は一緒に読んでみようか」——そんな声かけや共に楽しむ時間が、子どもたちの心に大きな力となります。

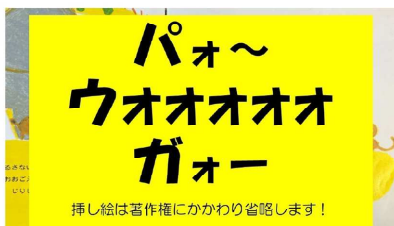
先生の種まきと、保護者の皆さまの水やり。その両方が重なり合うことで、子どもたちの中に読書の花が咲いていきます。ぜひ、家庭でも子ども

たちと一緒に読書を楽しんでください。

**学校 HP の紹介** 日々の教育活動や学校情報を発信していきます。学校を知る手段としチェックしてください。



### 先生のおすすめ一冊



|                                                                                                                                                                               |                           |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------|
| <p>書名『りんごがひとつ』</p> <p>著者 かんたけいめい 出版社 文芸春秋</p> <p>ほっこりやさしいお話なんです。</p> <p>りんごがひとつ落ちていました。みんなおなかをすかせているよ。さるがたったひとつのりんごを取ると、みんなはさるを追いかけます。さるがけの上までつめよって…ページをめくると、おもしろい絵が現れます。</p> | <p>挿し絵は著作権にかかわり省略します！</p> |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------|



学校 HP